



「あたまならしりつ」信頼される 脳卒中センターを目指して

市立病院と地域医療機関とのパートナーシップで高度な医療の実現をめざす

PARTNERSHIP

鹿児島市立病院 広報・医療連携誌 Vol.47 2025.1



2024.12.18 鹿児島市立病院 小児科病棟に
サンタクロースがやってきました!



鹿児島ユナイテッドFC
(徳重剛クラブ代表 / 武星弥 選手)



フィンランド・サンタクロース村からの
サンタクロース
(サンタクロース財団公認)





第2回

「あたまならしりっ」信頼される脳卒中センターを目指して

脳神経外科医と脳神経内科医が協力して診療

鹿児島の脳卒中医療を支えるPSCコア施設として認定

当院の脳卒中センターは、脳神経外科医と脳神経内科医がタッグを組んで診療を行っている県内でも数少ない施設です。24時間体制で迅速に対応し、超急性期における確

な診断と高度な医療を鹿児島県全域に提供しています。脳卒中ホットラインも設立しており、ご紹介いただく施設や救急隊と、当センターとのスムーズな連携も行っています。これにより、血栓回収やtPA静注などの超急性期脳梗塞治療の適応患者を見逃さず、短時間で治療

を行うことが可能となっています。現在当院の血栓回収においては、病院着から手術終了まで約80分(中央値)で終了しています。

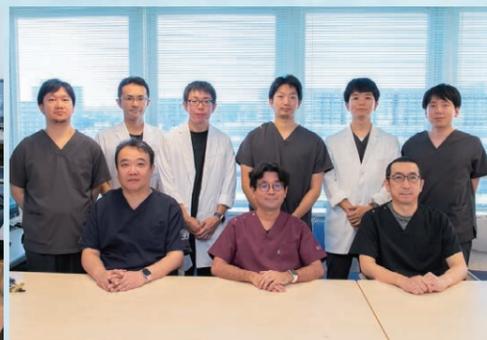
そして当院は日本脳卒中学会から、地域の脳卒中診療の中心となるべく、「一次脳卒中センター(PSC)コア」に鹿児島県で唯一当初より継続指定されています。これは、他院からの血栓回収症例を24時間引き受けられる施設です。今後はさらに上の包括的脳卒中センターを目指していきます。

自分の家族を入院させたい病院を目指して

当院に搬送された患者さん



脳神経外科医・脳神経内科医合同カンファレンスの様子とスタッフ一同(上2枚)



専門的に広い分野をカバーできるのは、当院の強みの一つです。

今後もスタッフそれぞれの

力を合わせた総力で、「あたまならしりっ」とみなさんに思っていただけよう尽力いたします。



SCU(他職種)カンファレンスの様子とスタッフ一同(上2枚)

3つの治療

●脳動脈瘤治療

年間100例を超える症例に対し、血管内治療(コイル、フローダイバーター他)と開頭術(外視鏡、小開頭、Dクリップによるクリッピング)のどちらがよいかを判断して行っています。県内では最多、九州でも有数の施設です。

●血栓回収

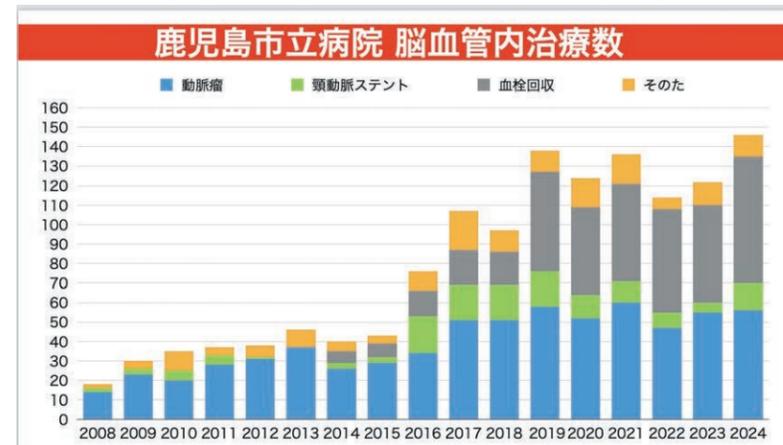
脳血管内専門医は4名が常勤しています。24時間365日、常時血栓回収を行える体制で、鹿児島県で最大規模(専門医、症候数)となっています。

●フローダイバーター

未破裂脳動脈瘤に対して、最

近はフローダイバーターが主流の一つになっています。留置するだけで動脈瘤が治癒する画期的な治療です。当初は大きな動脈瘤10mm以上が適応でしたが、最近では5mm以上の小さな動脈瘤も適応となっています。

当院では2020年1月から約70例のフローダイバーター治療を行い、良好な成績を取っています。当院での脳血管内治療数は年々増加しています。



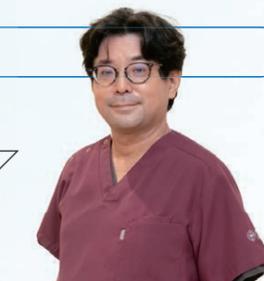
脳卒中センター 西牟田センター長からのメッセージ

いつも連携させて頂いているクリニックやリハビリ病院、救急隊のみなさまのおかげで、当センターもここまで成長できました。感謝申し上げます。救急隊とはさらに連携を深めるため、月に一度勉強会を開催しています。また、当センターに搬送された患者さんの処置の評価について、救急隊の方々にはレポートをお返ししています。今後も鹿児島の脳卒中治療とともに支えていきましょう。どうぞよろしくお願いいたします。

脳神経外科部長 兼 脳卒中センター長 西牟田 洋介 (にしむた・ようすけ)

認定医・専門医資格名 日本脳神経外科学会専門医 指導医 / 日本脳神経血管内治療学会専門医 指導医 / 日本脳卒中学会専門医 指導医 / 医学博士

趣味 日本史、猫、赤ワイン



脳卒中センターの詳細はこちらへ

